

stage

八戸で、自分が若手と呼ばれるようになってから、もう大分経つのだがその間、高校生ではない「若手」の劇団は皆無であった。そこに、彼女たちが「一発屋劇場」として名乗りをあげた。

だが、待ち望んでいた新たな劇団の産声は、あまりにも小さく、周囲に気付かれなかったのではなからうか。なぜ、もっと周到に宣伝・PRをしなかったのだろうか。もちろん、これは私が知らなかっただけかもしれない。だが、事前に連絡をもらっていなければ公演すら気付かなかったかとも思うと、複雑な思いがする。

会場は、元ゲームセンター。

立地条件は良いが、設備は何もない。だが、敢えてそこで芝居の公演をするというのだから、芝居の内容だけでなくそこがどのような空間に生まれ変わっているのかを期待していた。

扉を抜け受付を済ませると、色とりどりの風船で飾られたパネルが視界を遮る。そのパネルで仕切られた奥が、会場だ。一歩足を踏み入れるとそこには、パイプ椅子が並ぶ。その向こうに、舞台となる場所。セットは殆どなく、奥との仕切りが布が張られ、風船が飾つてあるのみ。照明も、最小限。舞台装置も最小限。最小限なことが、悪いとは言わない。極端な話「明かりがつかまりました。そこに人がいます」、それだけで芝居は成立する。だがそれが「面白い」か

どうかは、また別の問題なのだ。

この「だいたす」と言う芝居は、5人の登場人物がそれぞれ何かを捜し求めている物語だ。自分の存在する理由。自分の行動の理由。自分の居場所。それが知りたい！それが欲しい！それが無ければ自分じゃない！そんな叫びが、熱が込められていたように思う。

だが物語上はそうなっていないも、舞台上の役者の言葉は『言葉』になれず『台詞』のまま。叫びも熱も、伝わってこなかった。「若」って良いわねえ」的な感想を救いに満足して欲しくない。もちろん、しなくて良い苦労は、する必要はない。だが、必要な苦労はしなければならぬ。それは、「苦労」なんてつまらないものではない。そこを逃げたり投げたりして、いけば、いくら「サイ」は投げられた」としても、振り出しに戻るだけなのだ。

役者は、汗をかいていた。だが、観客も汗をかいていたのだ。会場は暑かった。最後まで『暑』は『熱』には、変わらなかったのだから。

例えば、中途半端に舞台と客席を分けるくらいなら、いつそ椅子など取り払い、役者が動けば、お



▲8月7日、8日に行われた、一発屋劇場公演「だいたす」の1シーン。

一発屋劇場「だいたす」を観て

演劇空間スペースベン

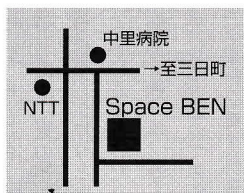
〈文〉脚本家・長尾広海

「だいたす」を観ると物語を演じるということがいかに難しいかがわかる。

今回のタイトル「だいたす」は、P.O.の複数形であり、この「だいたす」は「幸運によって与えられるもの」と言う意味がある。しかし、何事も与えられるのを待つだけでは駄目なのだ。その手

でわしづかみにして、もぎ取るくらいでなければ、『芝居がしたい』という根本的な情熱があるのなら、もっと色々なものを観て、もっと様々な人と知り合い、貪欲に知識や技術、方法などを吸収していくべきだ。

願わくば「一発屋」で終わらぬよう、観客に答えていって欲しい。



駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。(近くに西町書店駐車場有り)

問 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

FANSの番組につきましては、デーリー東北の「あすのメモ」「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

FANSでは、役者、スタッフ、その他何でも、何かを表現してみたい人を募集しています。ご遠慮なく、ご連絡下さい。

9月のFriday Amusement Negative Shop

■3日(金)・17日(金)・24日(金) ※全て午後7時30分～、料金500円

「FANSプレゼンツビデオ上映」(予定)

■10日(金)・11日(土)・12日(日)

「そして、誰かがいなくなった」第9回青森県民文化祭・演劇部門参加作品

10日(金)19:30/11日(土)14:00-19:00/12日(日)14:00 ※開場はそれぞれ30分前

前売り/一般2,000円・高校生以下1,000円 当日/それぞれ500円増し ※チケットはスペースベンにて販売

一人の人間が「そこに居た」ということを証明すること、「そこに居なかった」ということを証明すること。果たして、どちらが簡単なのだろう。この物語は、そこから始まる。ある男の不在証明をしようとする人々。同じ時、同じ場所、同じものを見たはずなのに、人の数だけ証言が増えていく。名探偵も、名刑事も出てこない。なんと言うことの無い普通の人しか、出てこない。「証言」という名の元に、それぞれの口から語られる真実。その「真実」は「事実」を浮き彫りにしていくのか？ それとも、「事実」を消し去っていくのか。あるいは、すべてが「嘘」なのか。皆、深刻に、陽気に、過ぎていく時間を楽しんでいるように集まり、去っていく証言者たち。男はそこに「居た」り、「居なかった」り。話は二転三転、どんどん速度をあげて回転していく。そして、最後に残ったモノは……。

プロデュース集団として、昨年9月に活動を開始したテアトロ [be:]。他劇団で活動している人間。フリーで活動をしている人間。プロデュース集団として「集団の個性」ということを意識することなく、自由にこだわり無く「良い加減」で芝居をつくっている「個性の集団」。青森公演、八戸公演、東京公演を経て、今回また新たなメンバーを集めたこの公演に挑む。(文/テアトロ [be:] 田中勉)

FANS番外篇

午後7時開演 ※開場は30分前

■25日(土)「井口聖人ライブ」前売り/一般2,000円・学生1,000円 当日/それぞれ500円増し ※チケットはスペースベンにて販売